

金沢市の夜間急病診療所 PM 7:00 ~ PM 11:00

小児科(24、週1回大学) :1名 ():協力医(医療機関)数

金沢市の休日当番医 AM 9:00 ~ PM 6:00

内科小児科	:4ブロック(25~34)	各1ヶ所
小児科	:全区(27)	1ヶ所
		2ヶ所(年末、1~2月Flu流行期、GW)
整形外科	:全区(33)	1ヶ所
外科	:2ブロック(36)	各1ヶ所
産婦人科	:全区(22)	1ヶ所
眼科	:全区(24)	1ヶ所
耳鼻咽喉科	:全区(13)	1ヶ所
皮膚泌尿器科	:全区(29)	1ヶ所

金沢市医師会の時間外・休日医療体制の実態とその問題点を報告したいと思います。

資料が多くフリーで喋ると時間がかかるので、原稿を読ませていただきます。

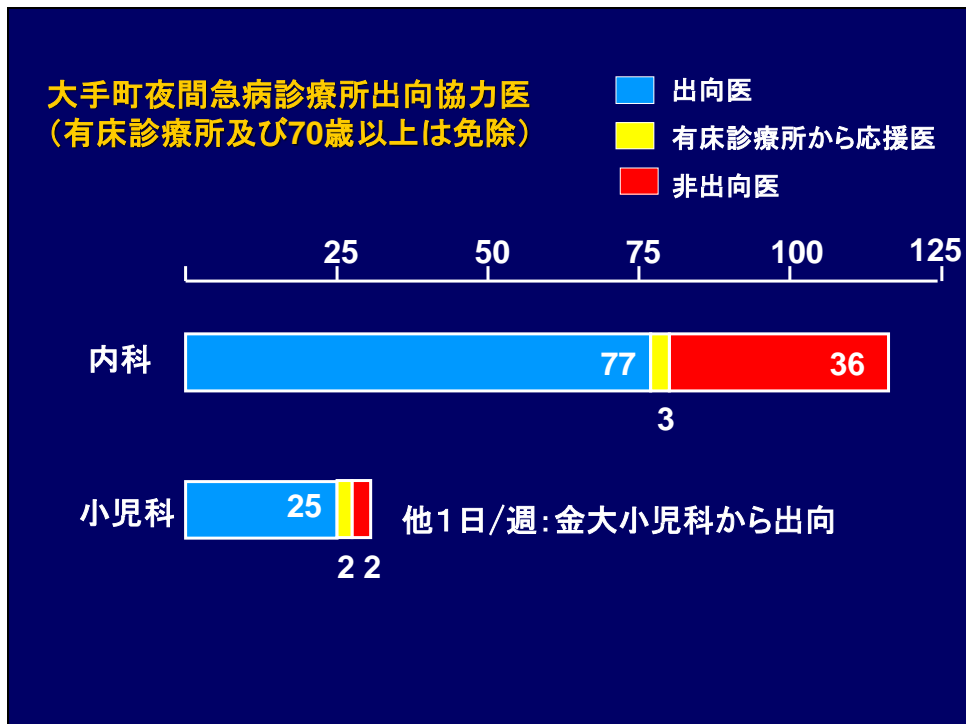
医師会としての時間外と休日一次医療体制です。

大手町の夜間急病診療所で内科と小児科を毎日準夜帯に診療しております。

日曜当番医は内科が市内を4ブロックに分け1本ずつ

小児科は全体で1本ですが、年末年始、インフルエンザ流行期、5月のゴールデンウィークには2本立てています。外科も2本当番医が立っています。他、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚泌尿器科で夫々1本ずつ立っています

()内の数字は協力医療機関及び協力医師数であります。



手町夜間急病診療所へ出向している協力医数であります。有床診療所と70歳以上は免除されております。内科では該当医師の1/4、小児科は2人の医師が都合で出向されておられません。

大手町夜間診療所・時間外・当番医のバックアップ

() : 協力医療機関数

	平日	日祭日
一次	大手町夜間診療所	当番医
二次	各々1ヶ所以上/日: 内科(13) 小児科(6) 外科(12) 整形外科(9) 脳血管障害(1) 循環器系(1) 全般(1) 1日/週:皮膚科(2) 1日/隔週:脳神経外科(1)	各々1ヶ所以上: 内科(9) 小児科(5) 外科(8)
三次	全科(2)、小児科(1)	

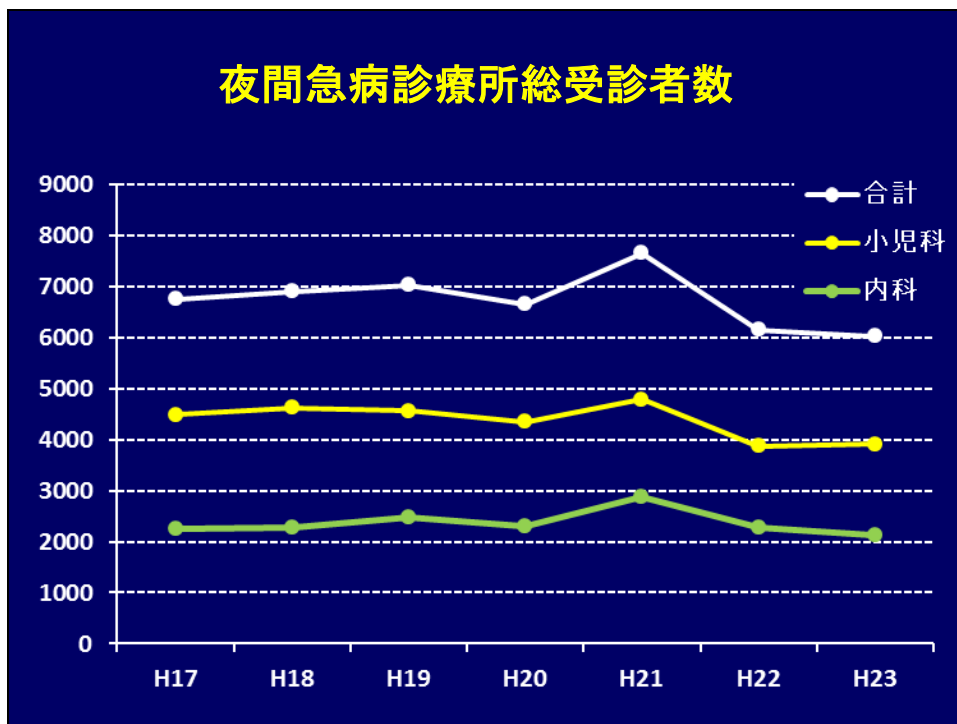
平日の夜間急病診療所、内科小児科以外の診療科と休日当番医のバックアップ体制であります。()内の数はその協力医療機関数であります。

夜間急病診療所(大手町)

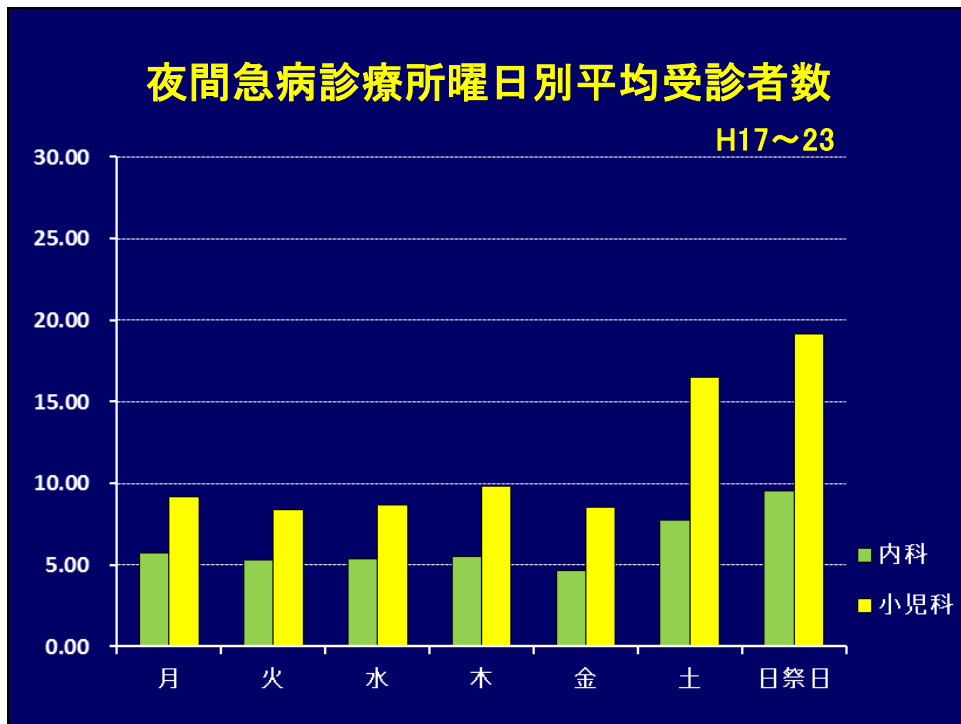
内科
小児科

診療時間: 19:00~23:00

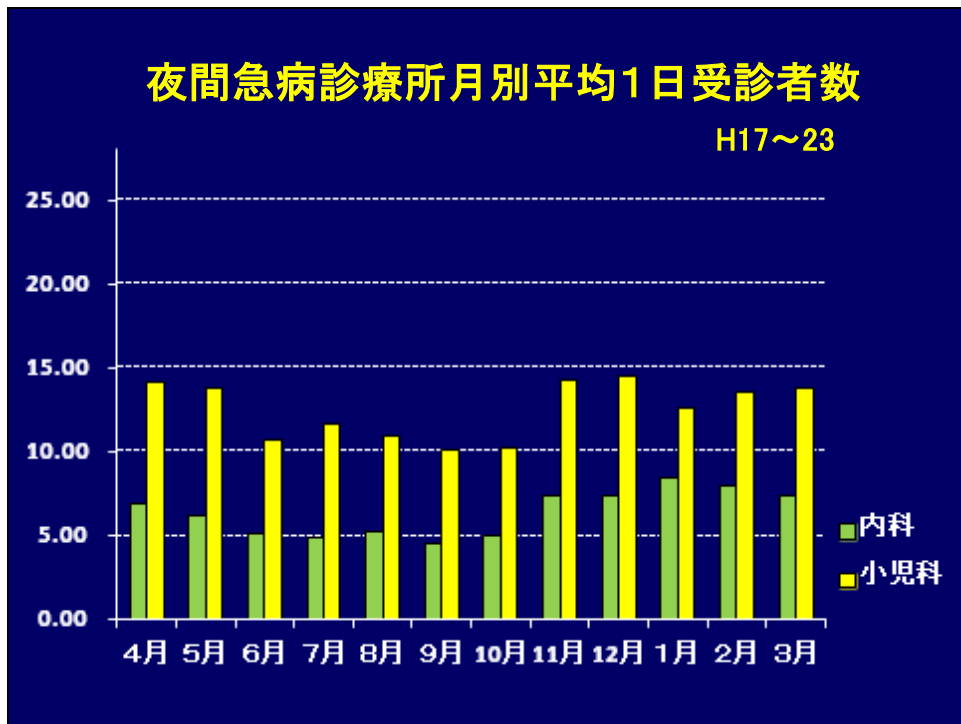
大手町の夜間急病診療所についてであります。内科と小児科が毎日19時から23時まで診療しています。それ以降は電話がかかるとトーキーで案内しております。



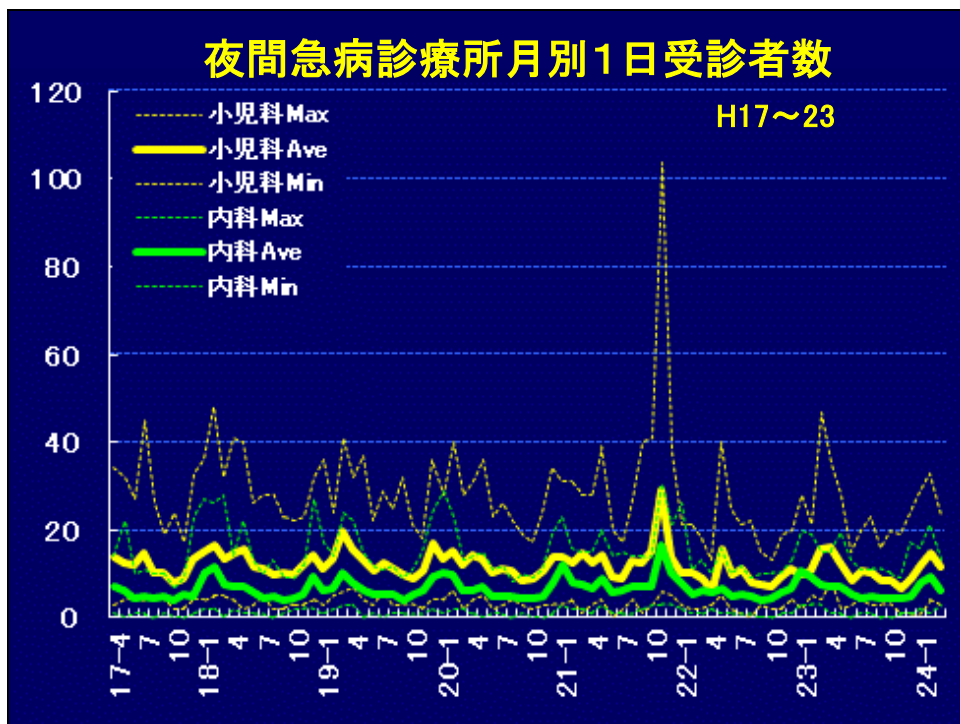
平成17年からの年間受診者数の変遷であります。黄色が小児科、緑が内科であります。小児科は内科の倍位の受診者数があります。



曜日別1日平均受診者数であります。土曜日、休祭日が1.5倍ないし2倍受診者数があります。



月別の一日平均受診者数であります。冬から春にやや多い傾向にあります。



月別の1日の最大と平均そして最小受診者数の変遷であります。飛び抜けて高いのは新型インフルエンザの時であります。小児科は102名の受診者があり、大きい児は内科の先生に診てもらい、小児科は応援医師を含め3人で診察をしました。



夜間診療に殺到する患者
—22日午後9時半、金沢市内の診療所

新型インフル

当番医に患者殺到

県内病院など分散に苦慮

新型インフルエンザの感染拡大が続く中、連休中の当番医や夜間診療窓口に向患者が集中し、混乱を来している。

22日も待合室はパンク状態で、100人待ちの状況が発生する診療所も。駐車場に入りきらない患者が路上に列を

らないうちに列をなし、病院側は殺到する来院者を分散する対応に追われた。

内科・小児科の夜間診療を行う金沢市大手町の金沢総合健康センター夜間急病診療所で、小児科の医師を2

人増やして対応。午後10時半時点で120人の患者を受け付けた。発熱した中学1年生

の孫を連れてきた同市の無職男性(73)は「3時間以上、車中で待つた。これだけ流行している状況だから仕方がない」とあきらめの表情を浮かべた。

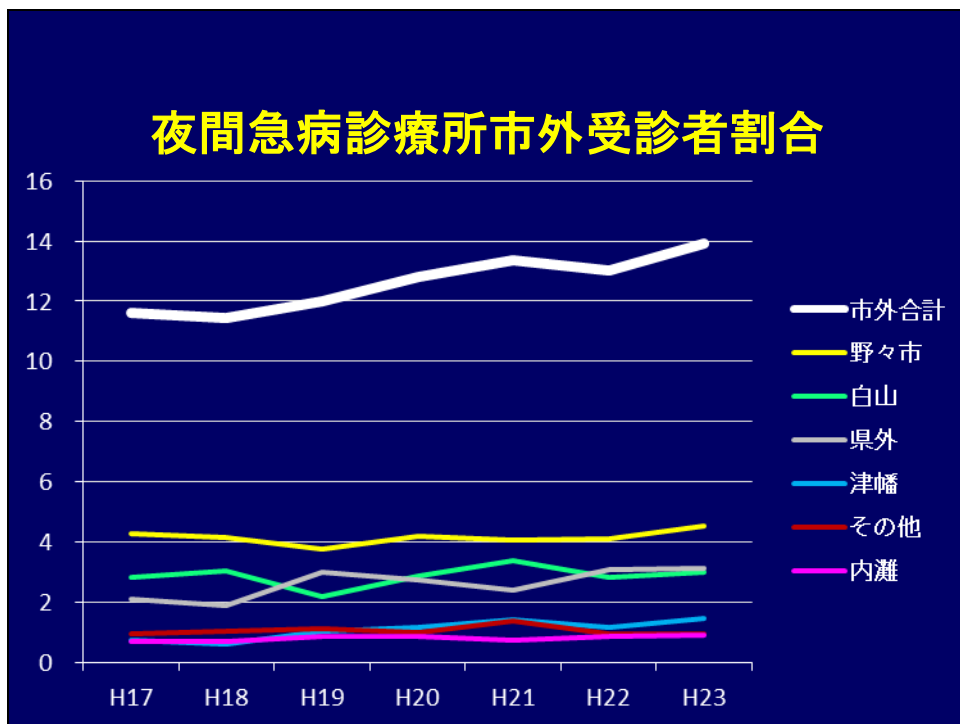
小松市の南加賀急病センターでは、「平年同期比で2倍以上、先週末と比べても1.5倍以上」の患者が殺到し、インフルエンザの検査キットも品切れ状態に。「医師、看護師ともオーバーワークだ」とスタッフの疲労を懸念する。

河北郡市1市2町の

休日当番医を務めた秋山クリニック(内灘町)では、午後9時半までに110人が治療を受けた。診察の順番が近づいた時点で自宅待機している患者に電話連絡を入れるなどの対応を取った。

県内では休診予定だった医療機関が臨時に診療したところもあったという。

これは翌日の新聞報道であります。



受診者のうち15%弱が市外からの受診者であります。

日曜当番医

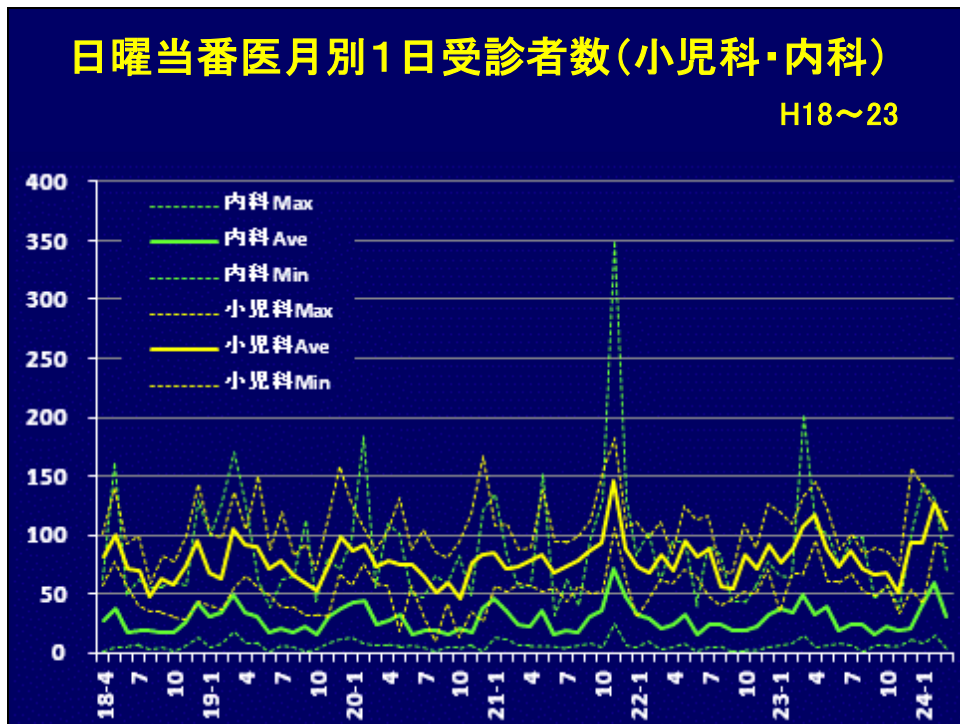
9:00~18:00

内科小児科 :4ブロック(25~34) 各1ヶ所
小児科 :全区(27) 1ヶ所
2ヶ所

(年末、1~2月Flu流行期、GW)

整形外科 :全区(31) 1ヶ所
外科 :2ブロック(18, 21) 各1ヶ所
産婦人科 :全区(22) 1ヶ所
眼科 :全区(23) 1ヶ所
耳鼻咽喉科 :全区(12) 1ヶ所
皮膚泌尿器科:全区(29) 1ヶ所

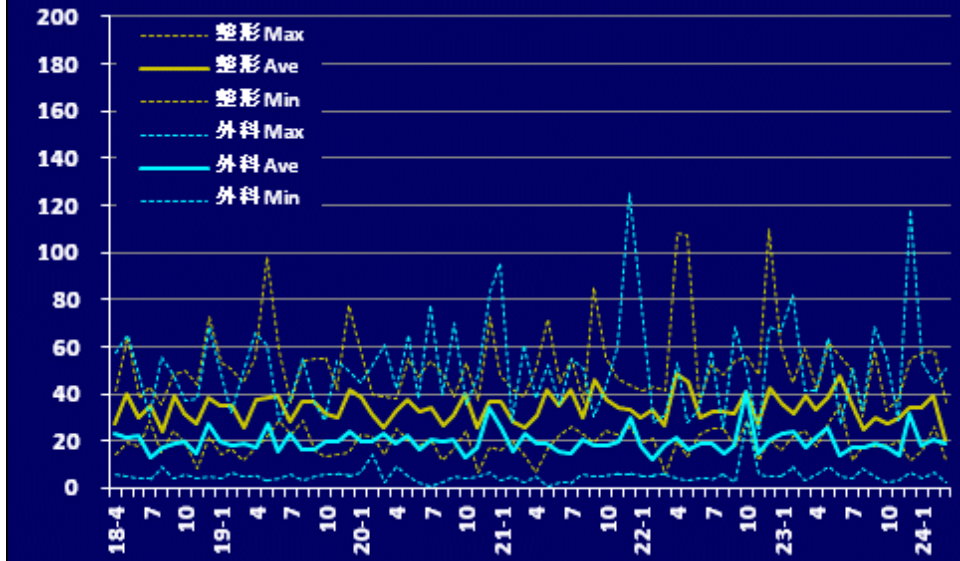
ここから日曜当番医であります。



小児科と内科の月別受診者数の一日最大・平均・最少受診者数であります。緑色の内科の非常に多いのは新型インフルエンザの時の内科小児科標榜している病院で／院内の応援医師で凌いだそうです。黄色の小児科は平均50から100人の受診者で、冬場は100人から150人の受診者で限界を超しており、最大150を超えているのも幾つかあります。限界を越しております。昼食を摂れない事もしばしばであります。当番医の時は殆ど従業員全員の出勤体制でしていると思われます。今年の冬

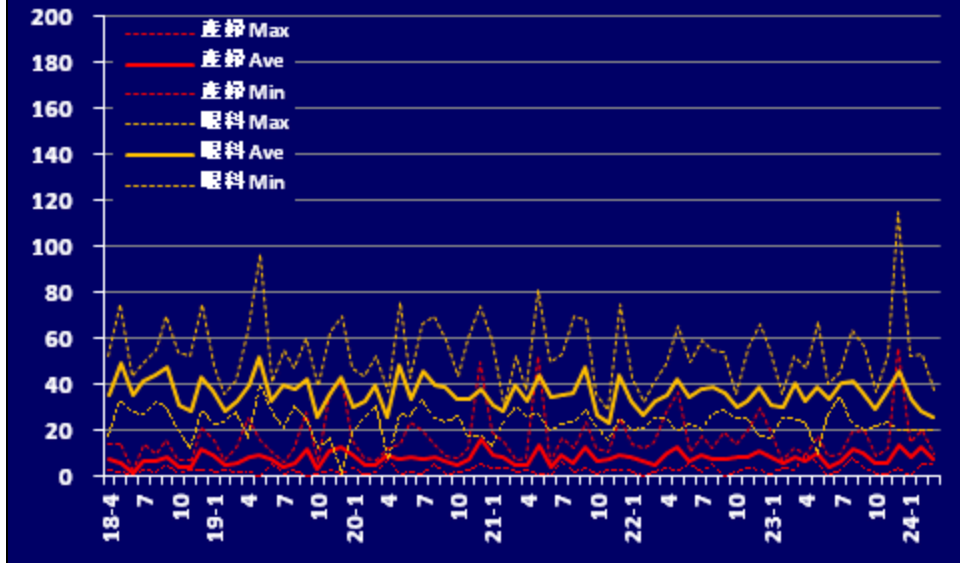
に、週半ばに体調が悪いので週末の当番医はできないと連絡がありました。替りの当番医を立てるにも、医師一人だけで当番医はできません。従業員がいなければできません。まして患者数も多く、殆ど新患であります。従業員は皆家庭を持っているので、すべての従業員の家族での予定を中止してもらうのは不可能です。順に電話をかけまくり、その申し出に1つの診療所が替りを引き受けてもらえて、なんとかかなりました。まず殆ど当番医の急な交替は不可能なのです。

日曜当番医月別1日受診者数 (整形外科・外科)H18~23



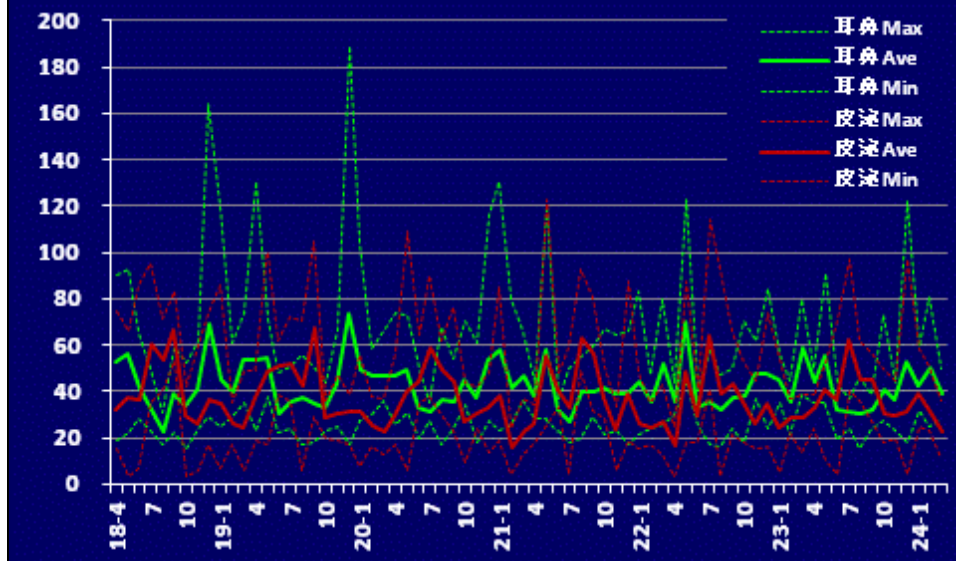
整形外科と外科です。スケールが内科小児科と違っています。

日曜当番医月別1日受診者数 (産婦人科・眼科)H18~23



産婦人科と眼科です。

日曜当番医月別1日受診者数 (耳鼻咽喉科・泌尿器皮膚科)H18~23



耳鼻咽喉科と皮膚泌尿器科です。耳鼻咽喉科も患者数が非常に多いことがしばしばであります。

夜間急病診療所出向・当番医回数/H23年

	当番医				夜間急病診療所	
	区数	医療機関数	総回数	回数/年・施設	出向医数	回数/年
内科・小児科	4	118 (25~34)	70x4 (70)	2.37 (2.05~2.80)	77	4.76
小児科	1~2	27	80	2.96	22 6(大学)	14.23 8.83
整形外科	1	31	70	2.26		
外科	2	37 (18~21)	70x2 (70)	3.78 (3.33~3.89)		
産婦人科	1	22	70	3.18		
眼科	1	23	70	3.04		
耳鼻咽喉科	1	12	70	5.83		
皮膚泌尿器科	1	29	70	2.41		

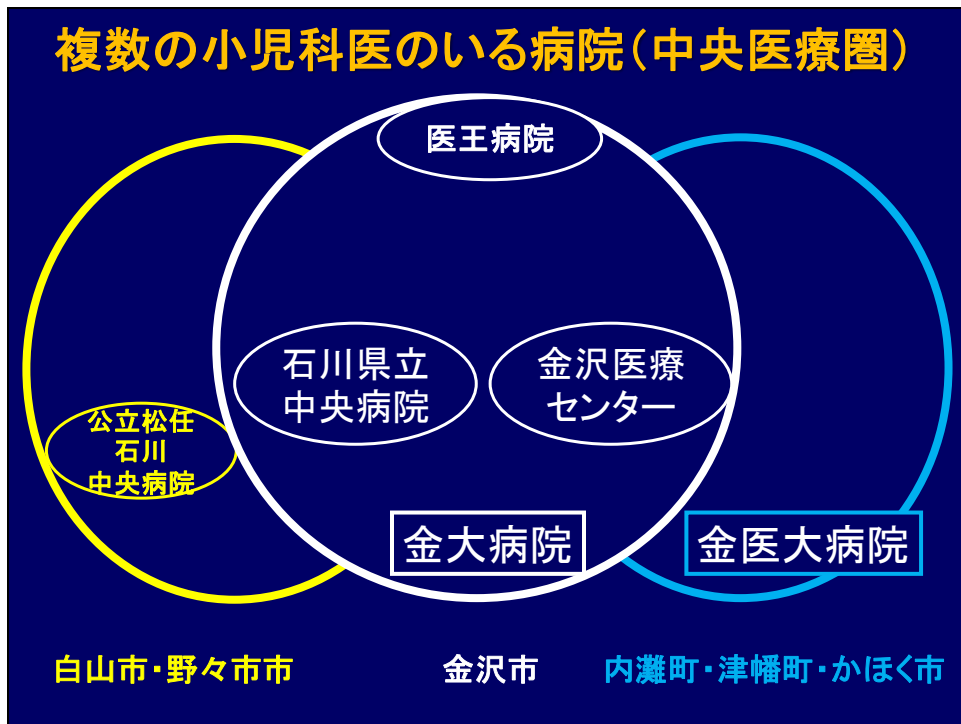
スライドは配布資料とちょっと違い、大手町夜間診療所を加えてあります。23年度の当番医の平均回数であります。平均の当番医は2~3回廻ってきますが、耳鼻咽喉科は12人でしているので年に約6回廻ってきます。2月に1回日曜日が潰れる訳です。内科と小児科は大手町の夜間診療所への出向もあります

小まとめ (金沢市夜間急病診療所・当番医)

- ・小児科医の急病診療所への出向回数多い
(小児科医が少ない)
- ・小児科当番医の受診患者数が多すぎる
- ・耳鼻咽喉科の当番医の回数が多すぎる
(耳鼻咽喉科医が少ない)

- ・ 金沢市の夜間急病診療所と当番医の問題点です。

小児科と耳鼻咽喉科が問題を抱えております。



小児科について問題点が多く、先日中央医療圏として時間外・当番医の問題をまとめる機会がありましたので、簡単に紹介します。

小児科は今の大手町急病診療所と当番医だけではなく、県中の準夜の応援、電話相談にも駆り出されております。

中央医療圏で複数の小児科医のいる病院であります。松任中央病院と医王病院は郊外で二次医療は実質県中と医療センターが担っております。金大は3次であります。金沢医科大は内灘なので金沢市の医療体制には制度上組み込まれていません。

平日準夜帯小児科診療体制(中央医療圏)

(): 担当協力医師数

	野々市・白山地区	金沢地区	内灘・津幡・かほく地区
一次	(一)	夜間急病診療所(22+水曜:大学)* 県立中央病院(8) 金沢医療センター(8)	(一)
二次	(一)	市中病院(6) **	(一)
三次	(一)	金大病院	(一)

* : ~23:00

** : 医療センター、医王病院、県立中央病院、聖霊病院、金沢日赤病院、社会保険病院

- 平日準夜帯の医療体制です。金沢以外の地区は、金沢市におんぶしております。

休祭日小児科診療体制(中央医療圏)

(): 担当医師数, 協力医療機関数

	野々市・白山地区	金沢地区	内灘・津幡・かほく地区
一次	当番医(10)※1	当番医(25+2(病院))※2 県立中央病院(8) 金沢医療センター(8)	内科系当番医
二次	(-)	市中病院(6)	(-)
三次	(-)	金大病院	(-)

※1: ~12:00
H23(10)→H24(8)

※2: ~18:00
年末年始
流感流行期 } :2医療機関
GW

- ・ 休祭日です。野々市・白山地区は午前中だけの当番医をしております。

深夜帯小児科医診療体制(中央医療圏)

(): 担当医師数

	野々市・白山地区	金沢地区	内灘・津幡・かほく地区
一 次	(一)	(県立中央病院(8)) 金沢医療センター(8) 市内病院(6)	(一)
二 次	(一)		(一)
三 次	(一)	金大病院	(一)

深夜帯であります。県中と医療センターは救急と24時間診療を看板にしているため深夜も対応して頂けます。

当直(当番)回数/H23年

当番医	協力医療機関数	総回数	平均回数/年・人
金沢市	診療所:25 病院:2	80	2.96
野々市・白山	診療所:10※	70	7.00

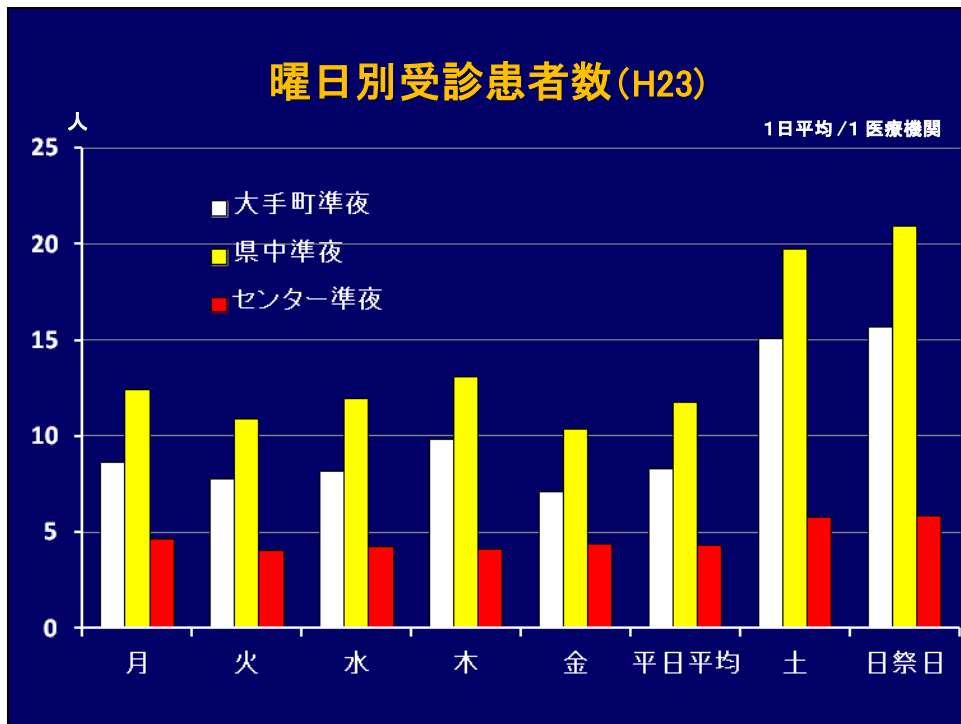
※: H23(10)→H24(8)、平均回数/年: 8.75

準夜帯	協力・当直医師数		総回数	平均回数/年・人
夜間急病診療所	市医師会	22	312	14.23
	大学	6	53	8.83
県立中央病院		8	365	45.75
医療センター		8	365	45.75

他 県立中央病院準夜: 1α/週(中央医療圏開業医8人(市内7名))

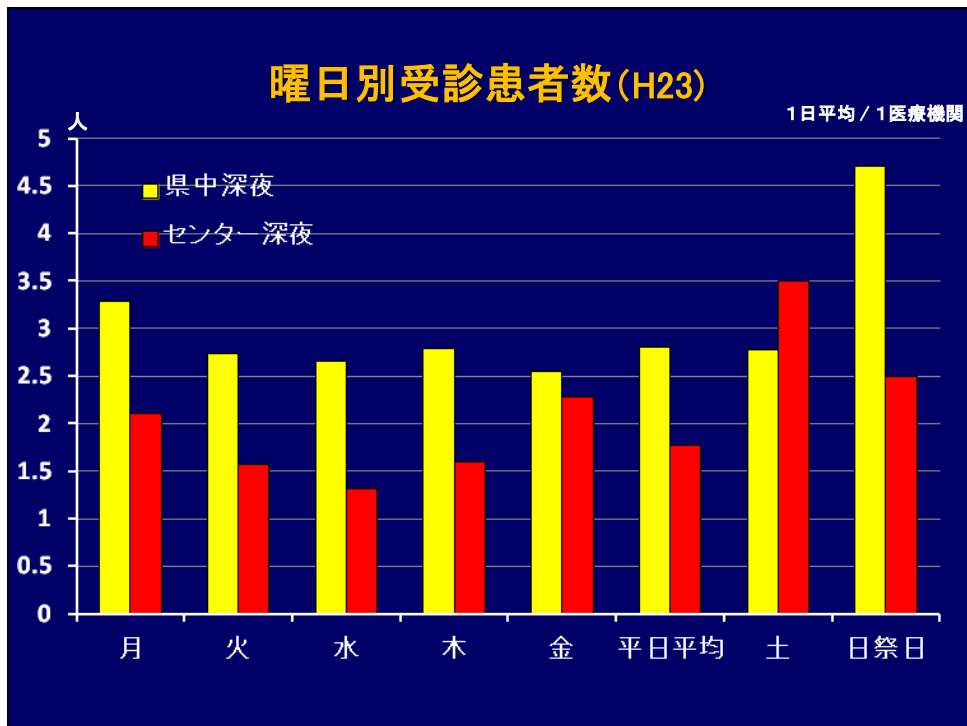
夜間小児救急電話相談: 毎日(県内小児科医33名(市内13名))

次に人の問題であります。上は休祭日の当番医です。金沢地区の小児科は高齢化が進んでおり、70歳以上の医師は5人も当番医を受け持っておられます。野々市白山地区の小児科医は午前中だけの当番医ですがひと月半に1回当番医が廻ってきます。下は準夜帯の大手町の夜間急病診療所と県中・医療センターです。我々一応若い小児科開業医は大手町と当番医と合わせれば17回強のdutyがある訳です。大学の応援の先生は年に約9回、県中、医療センターは実に年に45.75回で、このどちら病院でもそれ以外に病院の二次医療も更にこなしております。なお、大手町は70歳以上の医師は免除されております。

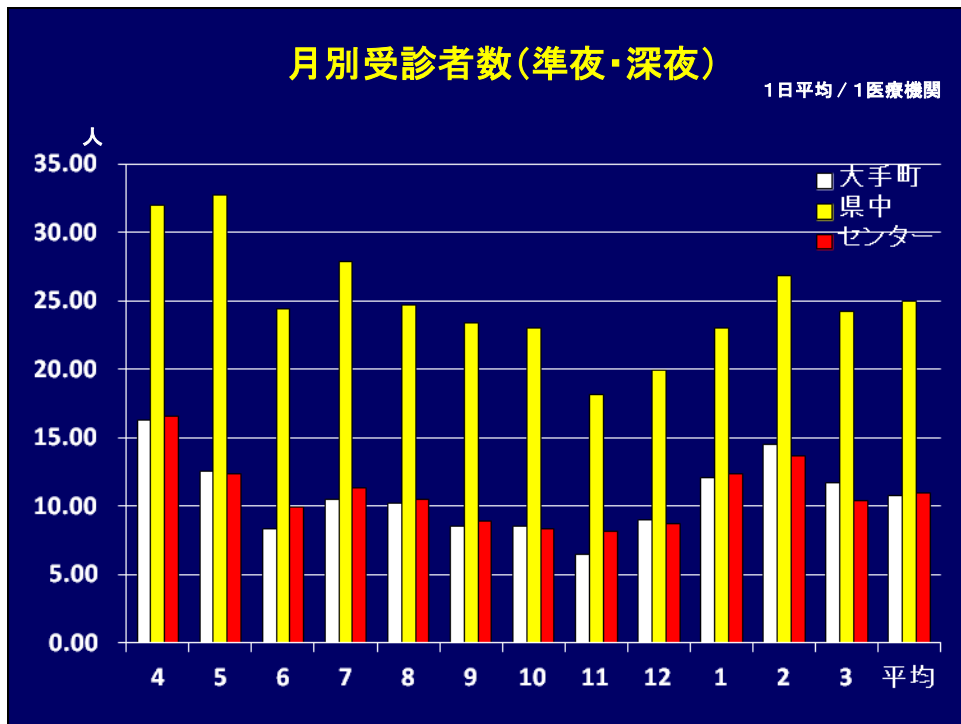


- さて、それらの診療所・病院で、時間外の受診患者数であります。

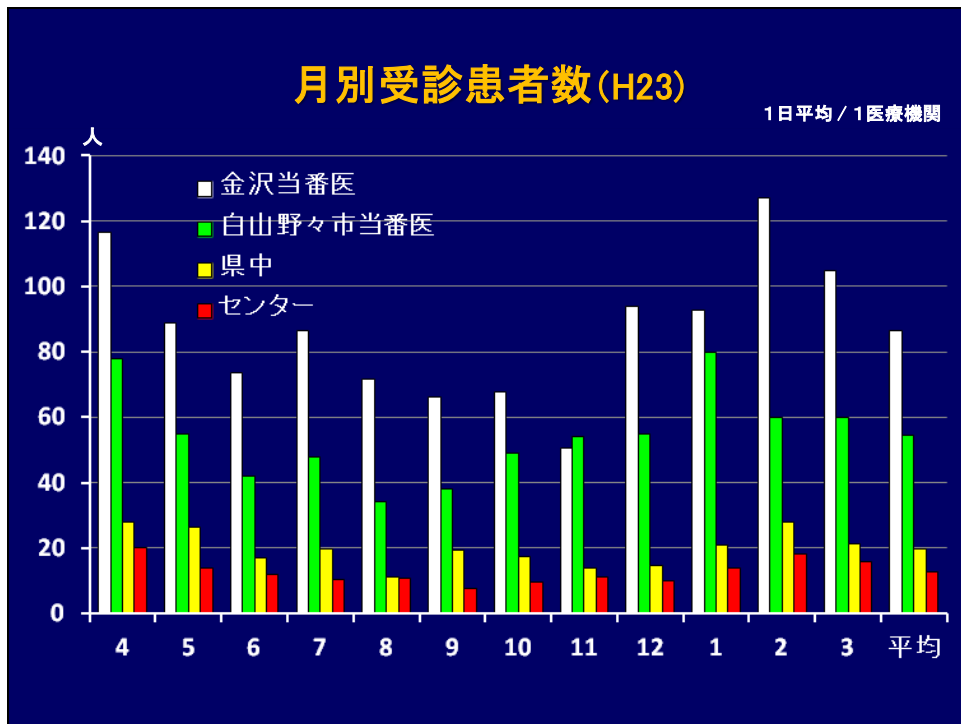
23年度のデータで、準夜帯です。白は大手町、黄色は県中、赤は医療センターです。年間の曜日別の一日平均であります。3つの医療機関を合わせても何とか医師一人でこなせる数であります。



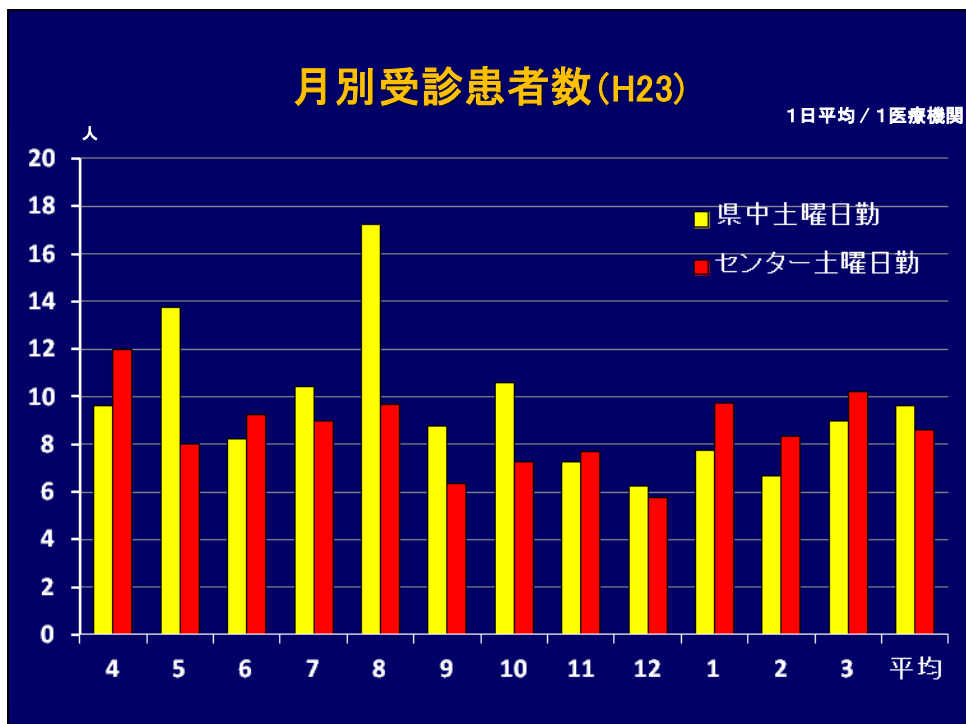
同じく深夜帯です、



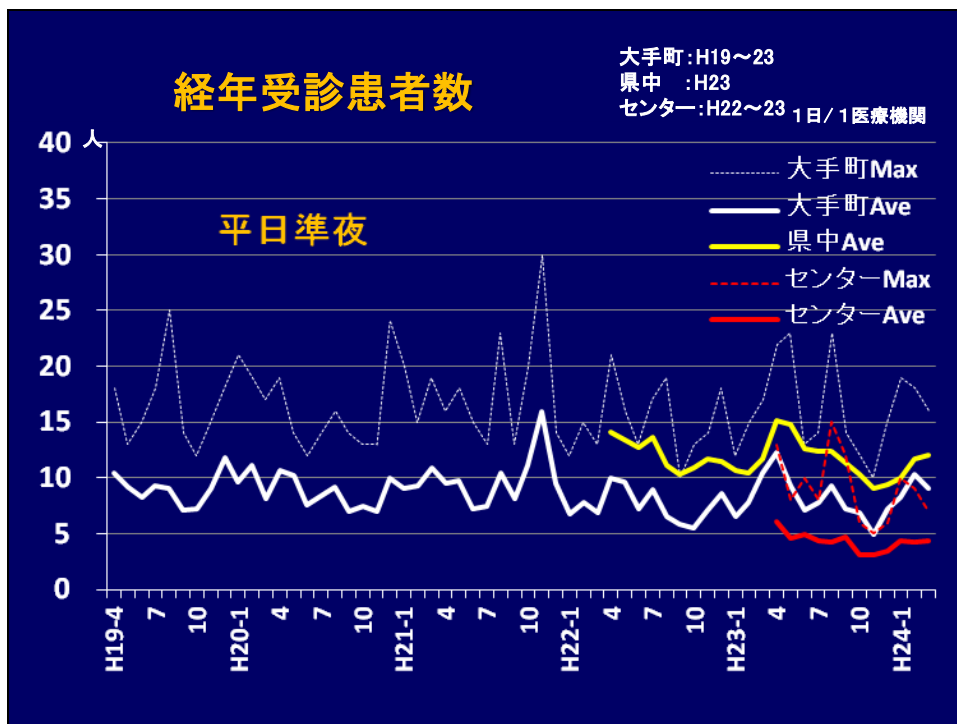
準夜帯の月別です。



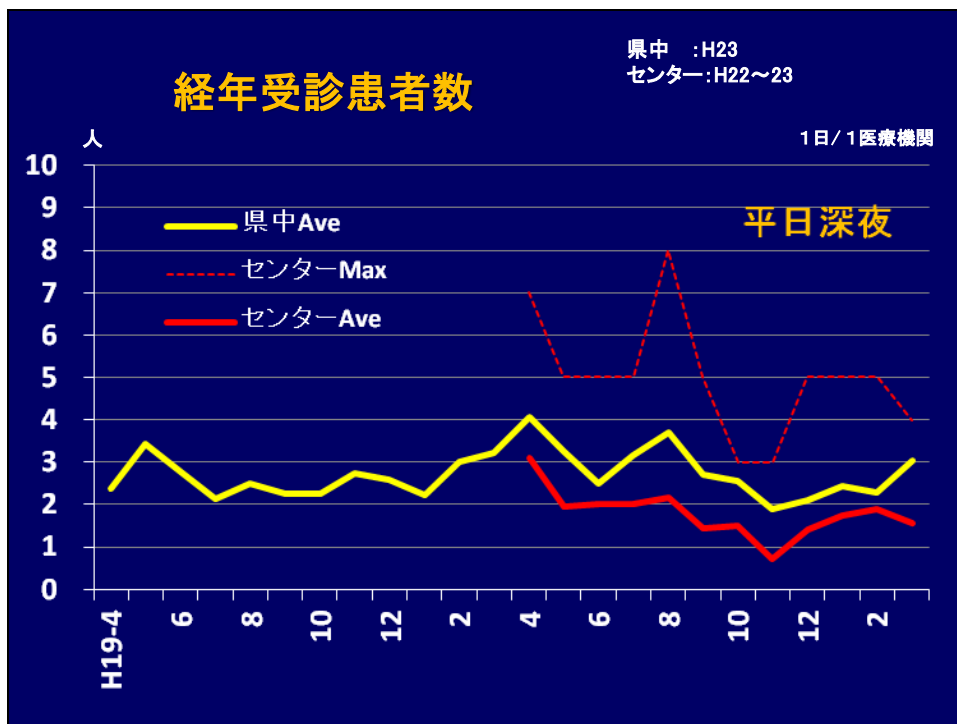
同じく月別の休祭日の受診者数です。



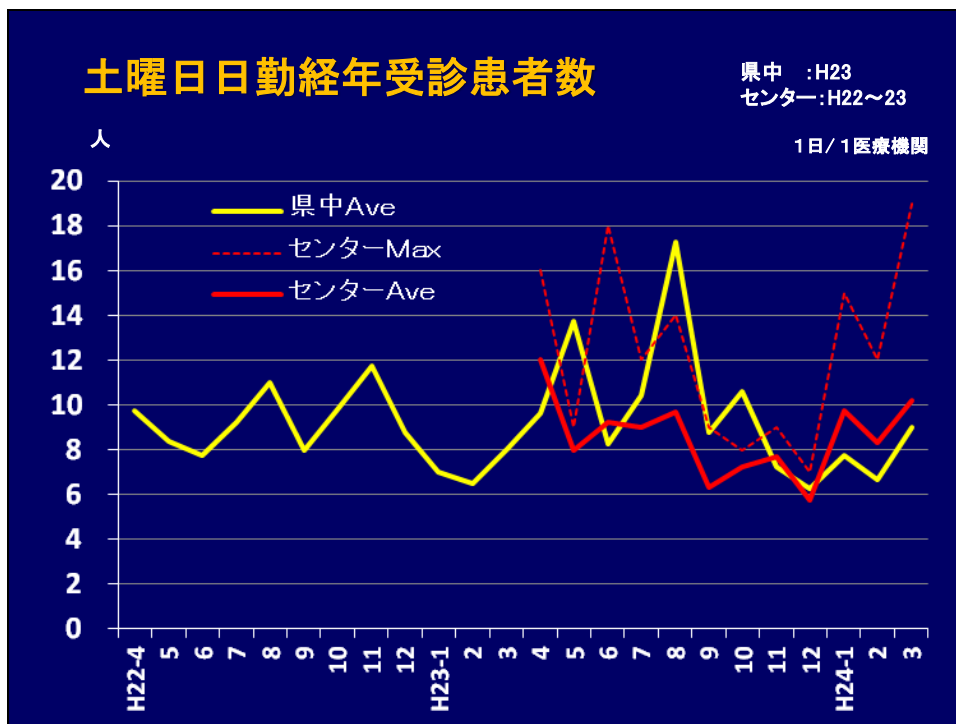
- ・ 同じく月別の休祭日の受診者数です。
- ・ 一般診療所が診療していて、休診日であるはずの
 県中と医療センターで日直医が対応する土曜日の
 受診者数です。



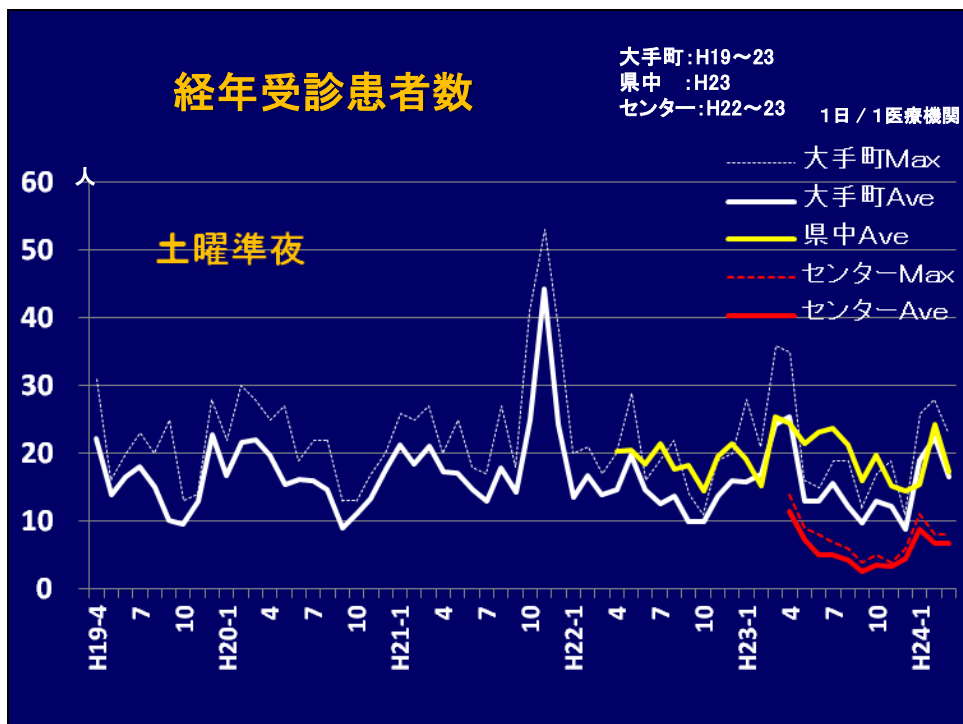
経年の月ごとの1日の平均受診者数です。これは平日準夜帯です。県中は2年間の平均だけを黄色で、医療センターは昨年1年間の平均と最大を赤で示してあります。データーがコンピューターからの出力の問題でこのようになりました。なお県中は外科疾患も含めた16歳未満の救急外来の受診者数です。



その平日深夜分です。

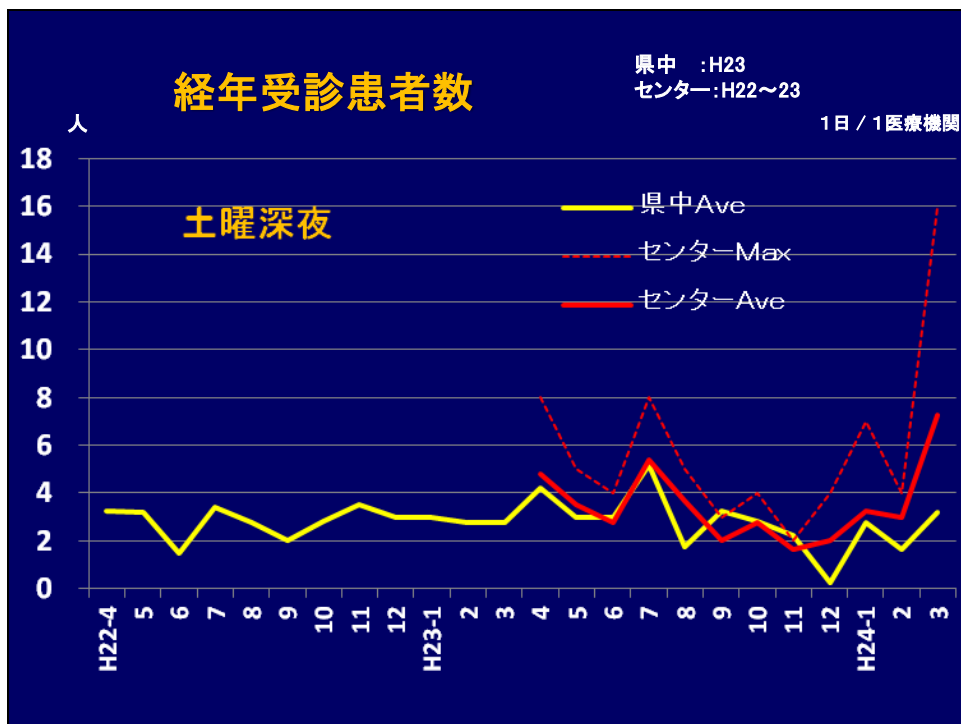


- 一般開業医が診察している県中と医療センターの土曜日の日勤分です。



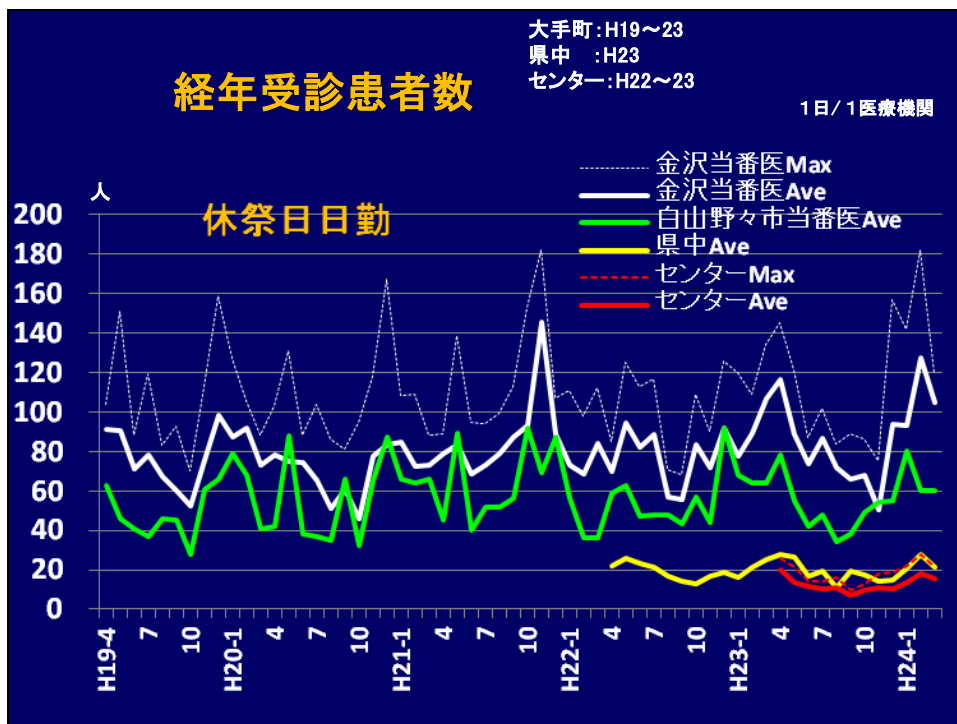
土曜日の準夜帯です。

。

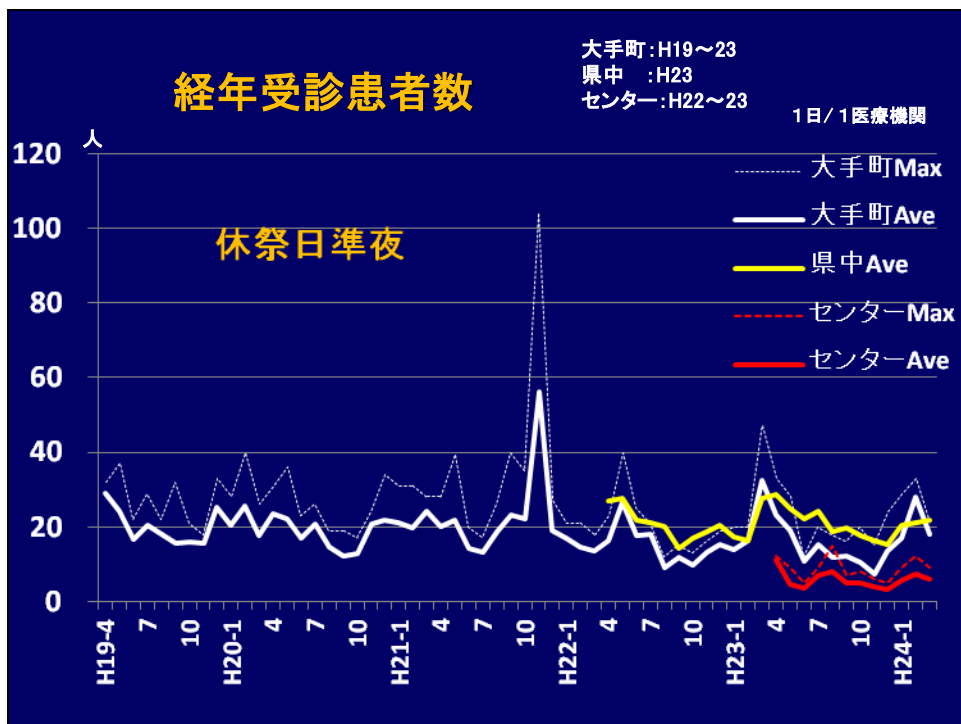


土曜日の深夜帯です。

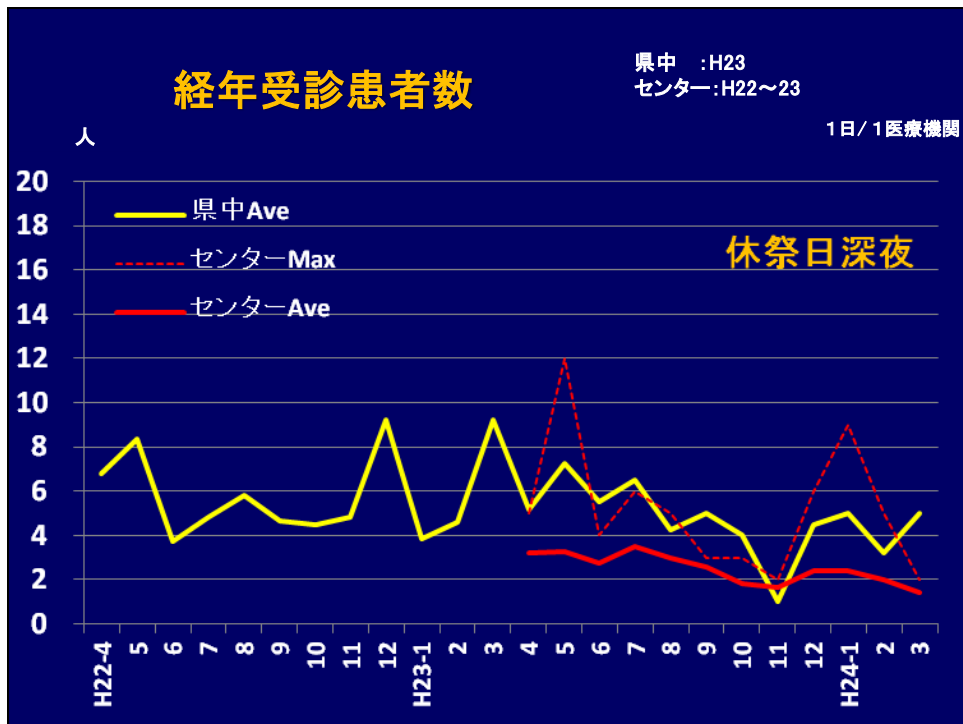
。



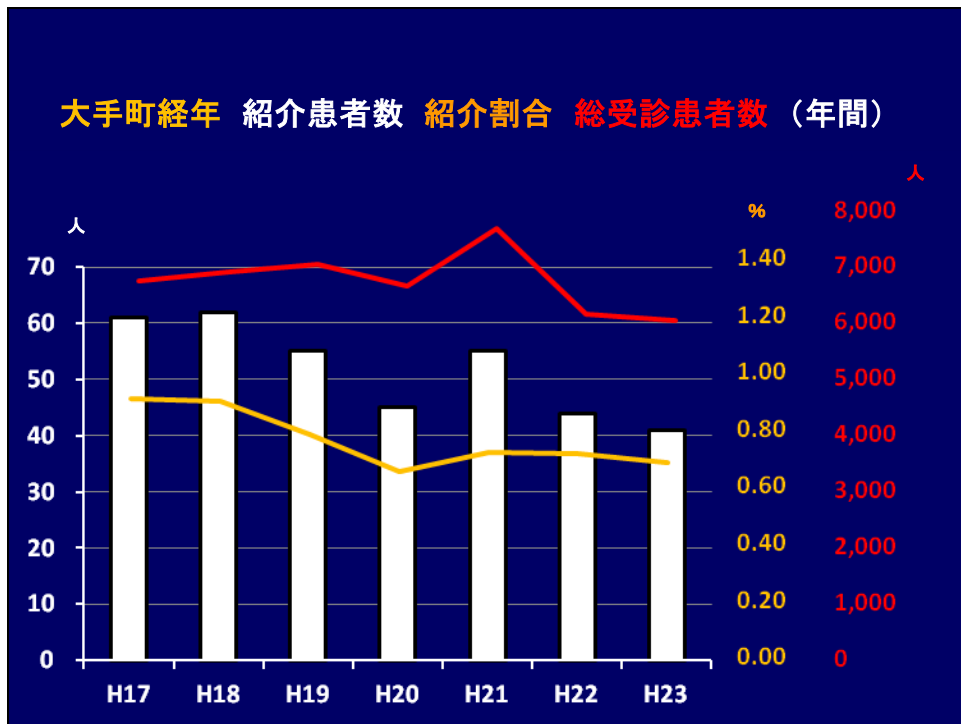
- ・ 休祭日の日中です。緑の野々市・白山は半日の当番医で平均のみの数です。



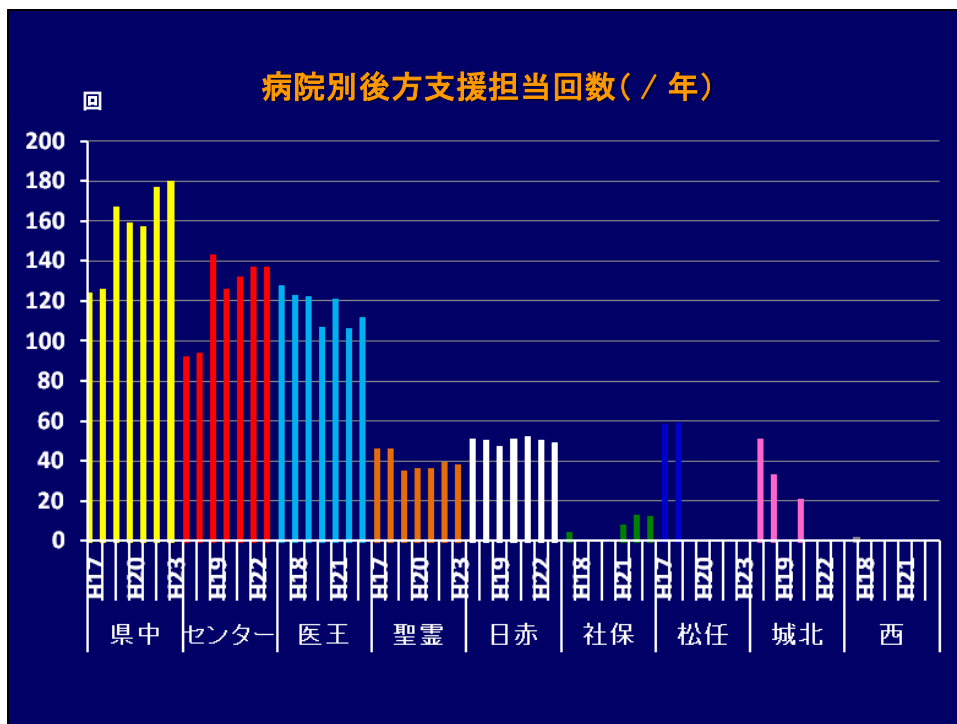
- ・ 休祭日の準夜帯です。



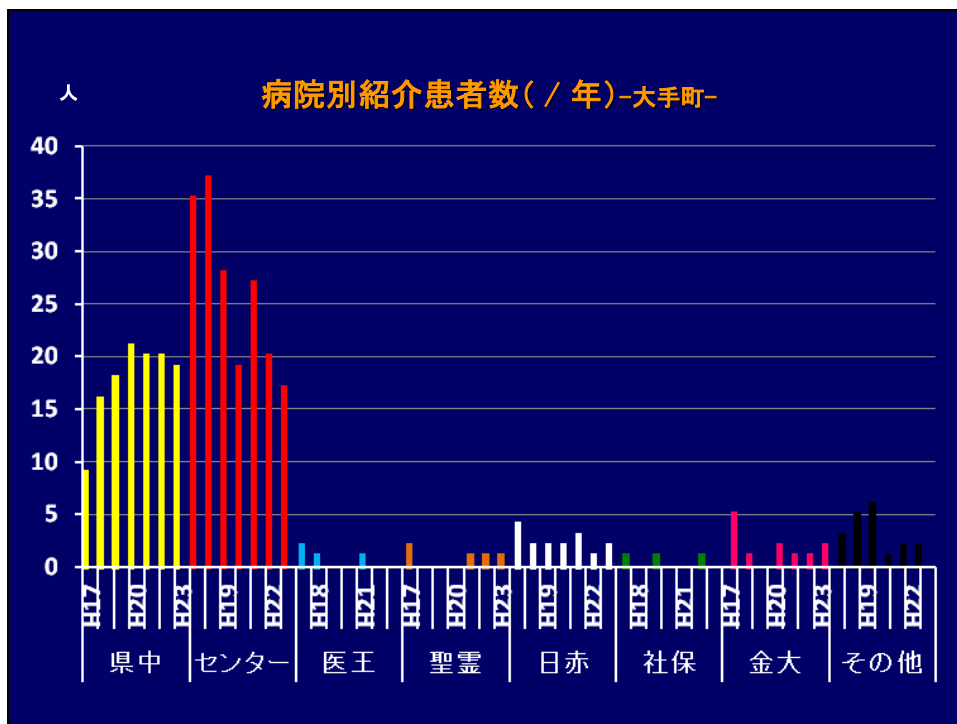
休祭日の深夜帯です。



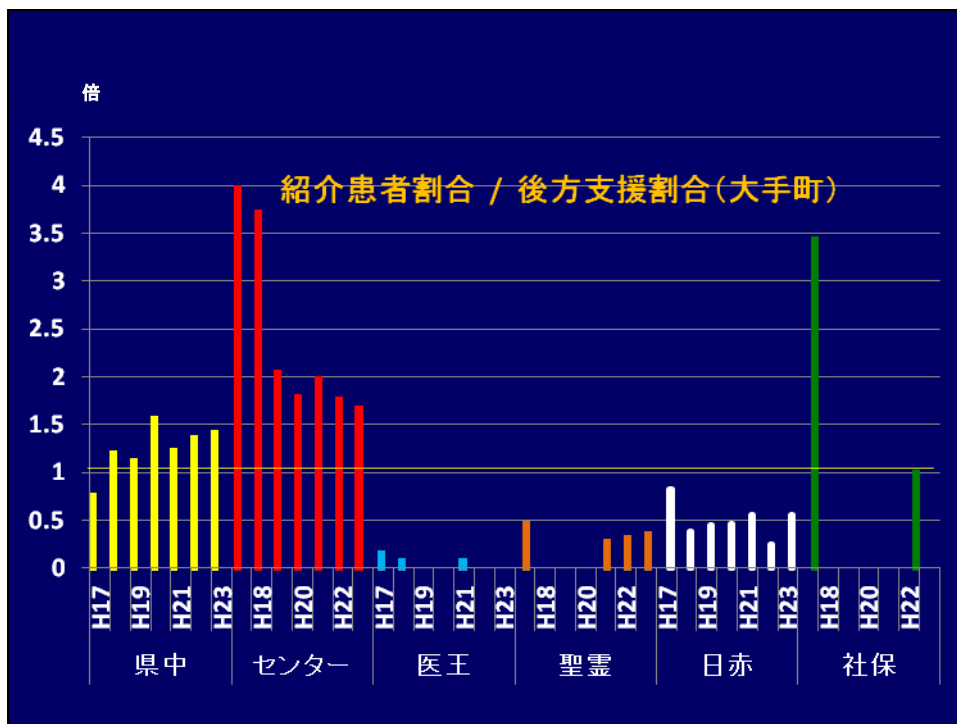
大手町の夜間診療所に戻ります。やはり小児科です。
0.8%位が入院になっております。



年間の二次の後方病院の担当日数です。



うまく機能していればその様な割合で紹介入院患者になるはずですが、実際は県中と医療センターに偏っています。



後方支援担当割合を分母に紹介患者割合を割ってみると、医療センターの方が地域的な問題なのか多い傾向にありました。

問題点

少ない小児科医師数

- ・ 開業医・病院勤務医も合わせても小児科医師の絶対数が少ない。
- ・ 開業医の高齢化に伴い時間外出向医数・当番医担当医数の減少傾向
- ・ 開業医・病院勤務医も出務回数が上限～上限を超している。

医療機関・医師数の地域的偏在

- ・ 金沢周辺の地域は医療機関の多い金沢に依存。

多い患者数

- ・ 当番医は医療機関の可能処理患者数を超している事が多い。
- ・ 病院勤務医は当直ではなく、勤務に近い状態である。

病院機能と分業

- ・ 大手町夜間急病診療所、県立中央病院、金沢医療センターにおいて一次医療として準夜帯の非効率的な診療。
- ・ 病院(勤務医)は一次のみならず二次医療機関の役目を担っている。
- ・ 二次後方病院として県中と医療センターに偏重。

- ・ 以上が金沢市を中心とした中央医療圏における小児時間外医療の現実です。今までの小児科の問題点のまとめです。

少ない小児科医師数

医療機関・医師の地域的偏在

多い患者数

病院機能と分業の問題 があります。

少ない小児科医師数

- ・ 開業医・病院勤務医も合わせても小児科医師の絶対数が少ない。
- ・ 開業医の高齢化に伴うと時間外出向医数・当番医担当医数の減少傾向
- ・ 開業医・病院勤務医も出務回数が上限～上限を超している。
- ・ 大手町夜間急病診療所、県立中央病院、金沢医療センターにおいて一次医療として準夜帯の非効率な診療。

地域的偏在

- ・ 金沢周辺の地域は医療機関の多い金沢に依存。



金沢市・野々市市白山市・内灘津幡単位ではなく

- ・ **中央医療圏としての医療体制
センター化**

金沢市小児科医会と耳鼻科医会の要望でもある、中央医療圏としてセンター化と

病院機能と分業

- ・ 大手町夜間急病診療所、県立中央病院、金沢医療センターにおいて一次医療として準夜帯の非効率的な診療。
- ・ 病院(勤務医)は一次のみならず二次医療機関の役目を担わねばならない。



数か所での一次時間外医療機関を

- ・ 一次の時間外診療は1ヶ所で

||

センター化

- ・ 二次医療機関は二次医療に専念

そして分業化が一次救急の破綻を遠ざけて呉れるのではとっております。

比較的症状の軽い方への[?]お願い (休日や夜間に急な病気で困った時は、下記の医療機関等をご利用ください)

① 休日当番医

休日の応急的な医療や軽症の方に対応するため、地域の診療所等が当番で治療にあたっています。この当番医については、新聞や市町の広報などでご確認ください。

※「石川県医療・薬局機能情報提供システム」(<http://i-search.pref.ishikawa.jp/>)、または携帯電話でも検索できます。

携帯電話からのアクセス方法

以下のURL(ホームページアドレス)を、携帯電話のWebブラウザのURL(ホームページアドレス)欄に入力するか、携帯電話がQRコードに対応している場合には、右の画像を読み取ってアクセスしてください。

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/index.html>



② 休日夜間急患センター(365日毎日診療)

★ 金沢総合健康センター

夜間急病診療所(内科・小児科)

《所在地》金沢市大手町3-23(健康プラザ大手町西館1階)

《電話番号》076-222-0099 《FAX番号》076-222-5566

《診療時間》午後7時～午後11時

★ 南加賀急病センター(小児科・内科)

《所在地》小松市向本折町60(小松市民病院南館1階)

《電話番号》0761-23-0099 《FAX番号》0761-23-0014

《診療時間》月～土:午後7時～午後10時30分

日・休日等:午前9時～午後0時、午後1時～午後10時30分

※「休日等」とは、祝日並びに1月2日、3日及び12月31日をいふ

なお、在宅当番医や休日夜間急患センターで受診され、入院や手術の必要がある場合は、救急病院等と連携して診療してもらえますので、ご安心ください。

③ 夜間小児救急電話相談(365日毎日実施)

お子さんが夜間に急な病気で事故で具合の悪い時、どのように対処すればよいか、電話で小児科医や看護師がアドバイスしています。

《電話番号》#8000 または 076-238-0099 《受付時間》午後6時～翌朝8時

日頃から、何でも相談できる『かかりつけ医』を持ち、早めの受診を心がけましょう

石川県健康福祉部地域医療推進室

一方これは県から出しているポスターです。行政は現場を知らずして、コンビニ化を推進しようとしています。

比較的症状の軽い方へのお願い



—— 休日や夜間に急な病気で困った時は、下記の医療機関等をご利用ください ——

休日当番医

- 休日の応急的な医療や軽症の方に対応するため、地域の診療所等が当番で治療にあたっています。
- この当番医については、新聞や市町の広報などでご確認ください。
 - ※ 軽いせきや鼻水だけの場合は、様子をみながら翌日かかりつけ医を受診しましょう。
 - ※ 石川県医療・薬局機能情報提供システム (<http://i-search.pref.ishikawa.jp/>)、または携帯電話でも検索できます。
- 携帯電話からのアクセス方法
以下のURL(ホームページアドレス)を、携帯電話のWebブラウザのURL(ホームページアドレス)欄に入力するか、携帯電話がQRコードに対応している場合には、右の画像を読み取ってアクセスしてください。
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/index.html>



休日夜間急患センター (365日毎日診療)

- 金沢総合健康センター夜間急病診療所(内科・小児科)
 - 所在地 金沢市大手町3-23(健康プラザ大手町西館1階)
 - 電話番号 076-222-0099
 - FAX番号 076-222-5566
 - 診療時間 午後7時～午後11時
- 南加賀急病センター(小児科・内科)
 - 所在地 小松市向本折町60(小松市民病院南館1階)
 - 電話番号 0761-23-0099
 - FAX番号 0761-23-0014
 - 診療時間 月～土▶午後7時～午後10時30分
日・休日等▶午前9時～午後0時、午後1時～午後10時30分
※「休日等」とは、祝日並びに1月2日、3日及び12月31日をいう



夜間小児救急電話相談 (365日毎日実施)

お子さんが夜間に急な病気や事故で具合の悪い時、どのように対処すればよいか、電話で小児科医等がアドバイスしています。

電話番号

#8000 または 076-238-0099

受付時間

午後6時～翌朝8時

なお、休日当番医や休日夜間急患センターで受診され、入院や手術の必要がある場合は、救急病院等と連携して診療してもらえますので、ご安心ください。

日頃から、何でも相談できる「かかりつけ医」を持ち、早めの受診を心がけましょう

石川県健康福祉部地域医療推進室

これはその改訂版ですが基本的には全然変わっていません。

比較的症状の軽い方へのお願い

休日当番医

- 休日の応急的な医療や軽症の方に対応するため、地域の診療所が当番で治療にあたっています。



Ex.

比較的症状の軽い方へのお願い

- 休日の危急的な医療に対応するため、地域の診療所が当番で治療にあたっています。
※軽いせきや鼻水だけなど軽症の場合には、様子をみながら翌日かかりつけ医を受診しましょう。

休日当番医

軽症の人に対応する為ではなく、応急処置とトリアージの為に診療している訳で、当番医も大手町も#8000も同様であります。



小児科が消滅の危機にあった兵庫県立柏原病院の小児科医を守る会の配布パンフレットであります。パンフレットは医師からのトリアージではなく、親からみた症状別トリアージで、我々がみても非常に参考になります。

多い受診数

- ・ 当番医は医療機関の可能処理患者数を超している事が多い。
- ・ 病院勤務医は当直ではなく、勤務に近い状態である。



かかりつけ医機能の回復・増強

コンビニ受診を減らす(家庭でのトリアージ等の広報)

センター化へ(医師個人でも応援・交替可)

くしくもその会スローガンは「かかりつけ医をもとろう」「コンビニ受診を控えよう」で、家庭でのトリアージを普及させ、その運動で実際／時間外患者数が減りましたし、小児科医も多数確保できました。

病院機能と分業

- ・ 病院(勤務医)は一次のみならず二次医療機関の役目を担っている。
- ・ 二次後方病院として実動は県中と医療センターに偏向。



後方病院はメンツを捨て二次医療機関に撤する

一次の時間外医療に小児科医の配置不要

||

効率的医師配置

そして効率の良い医療配置が必要なのではないでしょう
うか。

結語

少ない小児科医対策

- ・中央医療圏として一次の時間外診療・当番医のセンター化
- ・時間外・休祭日の診療の一次・二次の分業化

多い受診者対策

- ・かかりつけ医機能の復活
- ・家庭でのトリアージの普及

結語であります